

徳島・ドイツにおける交流の歴史

ドイツと徳島県との交流の歴史について、ご存じですか？

その始まりはおおよそ 100 年前に遡ります。第一次世界大戦時、日本軍の俘虜となったドイツ兵のうち約 1000 名が、現在の徳島県鳴門市にあった「板東俘虜収容所」に収容されていました。収容所所長の松江豊寿はドイツ人俘虜に対し寛大で人道的な措置をとったことで知られており、その結果、ドイツ人俘虜と地元住民との間に立場を越えた友好の絆が芽生えました。



1974 年、鳴門市はこの交流の歴史を受け継ぎ、ニーダーザクセン州内のリューネブルク市と姉妹都市提携を結びました。

このように徳島県はドイツと古くから結びつきがあり、これら交流の歴史を基に、徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州は 2007 年 9 月 13 日「交流に関する共同宣言」に調印し、経済、教育、スポーツ等の幅広い分野での交流を深めてきました。

鳴門市のドイツ館では、板東俘虜収容所で過ごしたドイツ人俘虜たちの活動の様子や、地域の人々との交流の様子を展示しています。ドイツ人俘虜たちが板東でどのような生活を送っていたのか、地域の住民とどのように関わったのか、なぜドイツ館が創設されたのかなどを、具体的に知ることができます。徳島に訪れた際には、是非立ち寄ってみてください。

